

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 福岡市立百道浜小学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜 4-24-1
E-mail momochihama.EL@city.fukuoka.lg.jp
Website http://www.fuku-c.ed.jp/schoolhp/elmomoth/
幼児児童生徒数 男子 301名 女子 246名 合計 547名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校には、中国・韓国・オーストラリア・アメリカ・ウルグアイなど、外国籍の児童もしくは保護者が外国人である家庭が多い。また、近隣にインターナショナルスクールがある。さらに、本校区は福岡市のランドマーク的な地域であり、外国人観光客も多い。

そのような特性を生かして、本校では「世界を視野に未来に挑む」を活動テーマとし、国際感覚豊かな子どもの育成を目指している。ESD の理念は本校の活動テーマとも非常に合致し、前述のような子どもの育成を一層推進していけると考えている。そこで「国際感覚豊かな子どもの育成」を目指して、総合学習の時間を中心に ESD の学習を進めているところである。

具体的には、国際理解に係わる活動 (3・6 年)、環境問題に係わる活動 (4・5 年)、伝統文化に係わる活動 (1・2・5・6 年)、福祉に係わる活動 (4 年) などの学習を行った。以下、いくつかの実践例を紹介する。

【環境問題に関わる活動】

5年生「さぐろう身の回りの環境」では、福岡市環境局の提供する「森林プロジェクト」を活用して、GT を招へいし、学校に植えている木の種類や特性をさぐった。また、木が成長するまでの過程を学習した後、校庭にて植樹体験をした。

【伝統文化に係わる活動】

5年生「さぐろう日本の食文化」では、日本の食文化について調べた後で、福岡の郷土料理について調べていった。パソコンで調べ学習をする際、BENESSE の情報インストラクターに協力してもらった。

子ども達の追究意欲を高めるために、

①参観授業で、保護者の前で発表する ②調べたことを特別教室に張り出して「福岡郷土料理博物館」をつくる
という2つの手だてをとった。

【伝統文化（日本の文化遺産）に係わる活動】

毎年、大相撲九州場所の時には、近隣に春日野部屋の力士たちがやってくる。そこで毎年、本校に力士を招いて、大相撲体験を行っている。



環境局から派遣されたGTが、校庭の植物について解説している



「福岡郷土料理博物館」の内部
子ども達の調べた壁新聞などを掲示している



春日野部屋の力士と相撲をとる子ども達

本校ではこの他にも、ESDに係わる様々な学習を行ってきた。これらの活動は、「世界を視野に未来に挑む」ことを目指している子ども達にとって、地域の特性を生かした非常に興味深い活動ばかりであったように感じている。しかし「(2)活動の詳細」でも詳述するように、これらの活動を学校全体で、発達段階に応じて系統的に位置づけていくことが次年度以降の課題である。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<p>主な資料としては、</p> <ul style="list-style-type: none">・『わたしたちの暮らしと環境』（福岡市環境局）・『わたしたちの暮らしと下水道』（福岡市道路下水道局） <p>等、福岡市編纂の社会科・総合学習副読本関係</p> <ul style="list-style-type: none">・福岡地区社会科研究協議会編『よいこの社会科』（光文館） など <p>そのほか、ベネッセ情報サポーターの製作したリンク集をもとに、各種ホームページを活用した。</p>

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、生活科・総合学習を中心に据えて、各学年で教科横断的な指導計画を立てている。例えば5年生の、社会科の環境の学習の発展学習として自分たちにもできる“環境を守る取り組み”について考える、「ももちはま地球救命隊！」である。

また、本校は社会科の研究校であることもあり、全職員で社会科・国語科を中心として課題解決型の学習過程の流れについて共通理解しながら学習を進めることができている。

課題としては、それぞれの学年ごとに教科と関連させながら指導計画を立てているので、「育てたい資質や能力」の内容が、他の学年と重複するものも少なくなく、学校全体としての系統性がないことである。学校としての「育てたい資質や能力」の学年間の系統性を構築していくことが必要だと感じている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

定期的に「ユネスコスクール部会」を開き、生活・総合学習担当の教師を中心に、各学年の学習内容・招へいする講師・見学する施設や連絡先などを確認するようにした。次年度以降も、スムーズに人材や見学先を確保していくためである。

また、次年度以降、スムーズに活動が進められるように、学年・学期ごとに、ユネスコ関連の学習で使用したワークシート・資料・学習の流れなどをデータ化して保存することをより徹底しているところである。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

②③とも重複するが、「ユネスコスクール部会」を開いたことで、本校における学校としての「育てたい資質や能力」系統性が必要である、という課題が明らかになった。

また、外部の評価も取り入れている。学校サポーター会議（校長・教頭・公民館、老人会等地域の方々により編成）において、学校長と地域の方々との間でもユネスコスクールについて意見交換を行っている。本校区は新興住宅地であり、伝統的な行事がない。そこで地域の方々は、郷土愛を育み、福岡を離れても郷土に誇りを持つことができるように様々な行事を考えている。それらを、ESD とリンクさせていくとよいのではないかという貴重な示唆をいただいた。「地域の伝統文化」の理解につなげていくことができる、重要な成果であると考えている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

本校におけるユネスコスクールの取り組みについては、学校長が学校便りや学校説明会等において、保護者や地域に継続的に発信している。そのため、本校がユネスコスクールとしての学習を進めていることについては、保護者・地域の理解を得ることができている。今後は、より具体的な学習の中身が、周囲にもよく見えるようにしていくことが必要であろう。

また、近隣の小・中学校にも、中学校ブロックの研修の際などに発信していくことで、より周囲の協力を得ながら効果的に学習を進めていけるものと考えている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（２００字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

地域の老人会を「昔遊び」のゲストティーチャーとして招へいしたり、市環境局の提供するプログラム「森林環境プロジェクト」の活用、将来の夢を考える学習において、人気ラーメン店「一風堂」スタッフの招へいなど、地域や、学校以外の団体も活用した。また、全学年において、ベネッセコーポレーションより来ていただいている「情報サポーター」を、調べ学習において活用している。

課題としては、身近なところにもっと活用できる人材や素材があるので、それらをいかに活用していくか、という点である。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

現在本校においては、国内外のユネスコスクールとの交流は行っていない。近隣にユネスコスクールがない、という地理的な条件もある（福岡市内の加盟小学校は、本校のみである）。しかし、他校のESDの実践から、学習内容や学習過程、学年ごとの系統性等を学ぶことは、本校のESDをより深化・発展させていくために必要なことである。まずはホームページにおける他校の実践を子ども達に紹介し、本校からもホームページ等を通じて発信していくことから始めていきたい。そして将来的には、本校以外のユネスコスクールとも直接交流していけるようにしていきたいと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

前述のように学校サポーター会議において、地域の方に貴重な示唆をいただいている。本校は新興住宅地であるため伝統的な行事がない。そこで地域の方々は、郷土愛を育むことができるように、手作りの神輿を使った夏祭りを行ってくださっている。それらを、ESD 関連の授業とリンクさせていくとよいのではないかとということである。

また、近くにインターナショナルスクールがあり、外国語活動などで、一部交流がある。この施設と、遊びなどを通して子ども同士の文化交流を行うような活動もアイデアとして挙がっている。これらのアイデアを、ぜひ活かしていきたいと検討しているところである。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

②③で述べたように、まずは今年度中に学年・学期ごとに、ESD の学習で使用したワークシート・資料・学習の流れなどをデータ化して保存しておき、新年度もスムーズに学習が進めていけるように整備していく。そして新年度すぐに ESD 部会を開き、学校としての「育てたい資質や能力」系統性を構築していく。

具体的な活動計画については、今年度の学習内容をより深化・徹底させていくことになる。

その中でも、⑧で述べたように、地域の方々が創り上げてきた夏祭りを2年の生活科「昔遊び」と関連させたり、地域にあるインターナショナルスクールと本校とで、子ども同士の文化交流を行うことを3年の社会科「まちたんけん」と関連させたりするなど、今年度産まれた様々なアイデアを、ひとつでも多く具現化していければと考えている。